

I 自己評価・生徒・保護者評価の結果について

(1) 概要

学校の現状について

本校は、全校生徒数700名を超える都内でも有数の大規模校である。空き教室は一つもなく、少人数授業の展開や理科室での実験等が十分に実施できず、新型コロナウイルス感染症対策である三密をつくらない教育活動の展開も難しい状況にある。

しかし、校内はコロナ前の状況と変わらない落ち着きのある学校生活を堅持している。これは、全教員による休み時間中の生徒の見守りや、始業2分前の着席を推進することにより、チャイムと同時に授業を開始するという姿勢を、年間を通じて貫いているからである。

また、全教員が担任と副担任の別なく協調と協働を第一として、生徒と正面から向き合い、日々の教育活動を通じて信頼関係を築くべく取り組んでいる。特に、今年度は本校の特長である二大行事（運動会・合唱コンクール）を実施することができ、保護者からも高い評価を得て、生徒一人一人に自信と誇りをもたせることにつながった。

年度末の質問紙調査では、「学校生活は明るく活気があり楽しいですか」という項目に対して、生徒の肯定的評価88.5%（昨年度比4ポイント減）、保護者の肯定的評価77.5%（昨年度比8ポイント減）となった。長引くコロナ禍の影響が、生徒や保護者の評価にも表れていることが伺える。

今年度の重点目標について

I.学力向上～何を学んで、何ができるようになったのか

- ① 大泉中授業スタンダードを踏まえた「わかる授業」「魅力ある授業」の展開と「主体的・対話的で深い学びを実現」をめざした授業の追求
- ② 新学習指導要領を踏まえた指導計画・評価計画の作成と実施
- ③ 基礎学力の定着と家庭学習の充実
- ④ 学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用

II.秩序と活力ある学校生活の堅持

- ⑤ 個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進
- ⑥ 「特別の教科 道徳」の内容の充実
- ⑦ 教育相談活動の充実
- ⑧ 特別支援教育の充実
- ⑨ いじめ問題の防止と適切な対応

III.健康・体力

- ⑩ 生徒の健康づくりと体力向上の推進
- ⑪ 安全管理と事故防止の推進

IV.キャリア教育の推進

- ⑫ 体験的な学習活動によるキャリア教育の推進

V.小中一貫教育の推進

- ⑬ 小中一貫教育研究実践校としての取組の充実

VI.教職員の意識改革

- ⑭ 授業改善と授業力の向上
- ⑮ 新学習指導要領に基づく指導と評価についての研究
- ⑯ サービス事故の根絶

VII.保護者・地域から信頼される学校づくり

- ⑰ 学校・地域連携事業の積極的な運用
- ⑱ 土曜日授業の内容の充実
- ⑲ P T A事業や地域行事等への積極的な参加、協力
- ⑳ 開かれた学校づくり

今年度の成果と次年度に向けた課題および改善策について

I. 学力向上～何を学んで、何ができるようになったのか

- ①大泉中授業スタンダードを踏まえた「わかる授業」「魅力ある授業」の展開と「主体的・対話的で深い学びを実現」をめざした授業の追求

□成果… 全教員が年間1回以上、大泉中授業スタンダードを踏まえた校内研究授業を実施した。ICT機器の活用とともに、授業導入時の「目標設定」、展開時における「発問の工夫や学び合い」「気づきを生む授業展開」に工夫が見られた。コロナ禍でグループ学習に制限があった際も、生徒用タブレットPCのスプレッドシート機能を活用した意見共有など、グループ学習でお互いに対面にならなくても可能な対話的授業を実現させた。教員の80%以上がタブレットPC等を活用した授業を展開するようになり、2学期末に実施した生徒対象授業評価質問紙調査では、授業に関する質問4項目の肯定的評価平均は86.8%で、「授業がわかりやすい」の項目に絞った肯定的評価の割合は、93%で昨年度比0.7ポイント増となり、成果を上げている。

■課題… 生徒用タブレットPCの活用については、教員のスキルの取得状況による格差がある。また、ICT機器の効果的な活用についても、学習活動の内容に合わせて検証していく必要がある。

- ②新学習指導要領を踏まえた指導計画・評価計画の作成と実施

□成果… 1・2年生の観点別評価の割合(1:1:1)については、年度当初の保護者会で説明し共通理解を図ったため、混乱なく移行できた。

評価の信頼性・妥当性を追求するための評価材料の明確化については、年度当初に評価に関する教員研修会をもち、新しい評価観に基づく観点別評価と評価の総括方法について教員間の共通理解を図った。さらに、1、2学期末に全教科・全学年の3観点の評価材料と評価基準を提出させ、教科部会で検証させた。

■課題… 教科部会において、常に年間指導計画・評価計画の見直しを行い、観点別評価の評価材料や評価基準の信頼性や妥当性を高めていく必要がある。

- ③基礎学力の定着と家庭学習の充実

□成果… 定期考査前には、生徒の学習意欲に応え、各学年で質問教室の時間を設けて対応した。また、夏季休業期間中の補充教室は実施することができた。授業時の小テストやスペリングコンテスト、計算コンテスト等を実施し、基礎・基本の定着を図った。

■課題…今年度も、コロナ禍により、秋に実施している3年生対象の「地域未来塾(学習に不安をかかえる生徒対象)」の開設ができなかった。また、生徒用タブレットPCに導入されているオンライン学習教材をさらに活用して家庭学習が充実できるように働きかける必要がある。

- ④学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用

□成果… 各種検定試験受験者数の延べ合計人数は、568名(英検受験者数324名、漢検受験者数165名、数検受験者数79名)で、多くの生徒が受験に前向きな姿勢を示している。

■課題… 今年度、区が学習支援ソフトを導入し活用を促したが、学習状況に関する質問紙調査「家庭学習に意欲的に取り組んでいる」という項目に対する割合の平均値は、昨年度と変わらず52%で伸びない。生徒用タブレットでの課題提出状況も教科によってはばらつきがあるので、さらに指導が必要である。

II. 秩序と活力ある学校生活の堅持

①個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進

□成果… 学校行事については、生徒・保護者とも94%が肯定的評価で、学年・学級経営計画による意図的、計画的な学年・学級経営についても、コロナ禍の影響もあったが概ね予定通り実施できた。また、基本的な生活習慣「あじみこし」は年間を通じて指導し、あいさつや規範意識の醸成については生徒89%、保護者92%が肯定的な評価となった。

■課題… あいさつや規範意識の醸成については、生徒の自己評価が昨年度と比較して5ポイント減少している。また、学校が楽しいと回答した生徒の割合は88%で、10%程度の生徒が充実感を得られていない状況であり、学級活動や行事への取組姿勢について改善を図る必要がある。

②「特別の教科 道徳」の内容の充実

□成果… 道徳の充実については、92%の生徒が肯定的な評価をしており、道徳的価値を多面的、多角的に理解するために、各学年ともローテーションを組んで教員が各学級を指導する工夫をしている。

■課題… 規範意識の醸成については、約10%の生徒が十分でないと感じており、改善を図る必要がある。

③教育相談活動の充実

□成果… 教育相談期間を1、2学期当初に設定し、予定どおり実施することができた。また、1年生全員を対象とした年度当初のスクールカウンセラー（以下SC）による面談も実施できた。さらに、不登校の出現率ゼロを目指して、教育相談部会を週1回定例化し、スクールソーシャルワーカー（以下SSWr）等の関係機関も参加してもらい実施している。生徒の89%、保護者の77%が肯定的な評価である。

■課題… 昨年度と比較して減少傾向にはあるが、心理的な不安やコロナ、起立性障害等の影響により学校に登校できていない生徒数の割合は4%（36名）である。

④特別支援教育の充実

□成果… 特別支援学級と通常学級の交流については、学校行事、生徒会、専門委員会活動や体育行事員会生徒とのポッチャ交流など実施することができた。

特別支援教育推進部会を毎週実施したことにより、特別な支援を要する生徒の抽出とその対応がより一層明確化した。また、指導については、個別指導計画に基づく指導の実施や部会での情報交換、巡回教員やSC、専門員との連携による個別支援の充実を図ったことで、4名の生徒が退室することとなった。

■課題… 特別支援教育推進部会で検討された様々な資料の充実を図った一方で、部員以外の教職員にその内容が十分浸透させられなかった。

⑤いじめ問題の防止と適切な対応

□成果… 月1回、いじめ質問紙調査を実施するとともに、記述のあった生徒について漏らさず対応し、迅速に課題の解消に努めた。また、年2回の三者面談と夏季休業日明けに行う教育相談では、生徒の気持ちに寄り添う個別面談の充実を図るなど、多角的にいじめに対する早期発見に努めた。いじめに対する教員の毅然とした姿勢について、学校評価では生徒90%、保護者81%が肯定的評価であった。

■課題… 重篤ないじめ問題は発生していないものの、派生していないが校外でのSNSに関するトラブルが発生している。保護者との連携をより一層強め、ルールの徹底を共有化していく。

III. 健康・体力

①生徒の健康づくりと体力向上の推進

□成果… 都体カテストの結果、合計点で男子9ポイント、女子4ポイントの向上が見られた。部活動については、学校評価では生徒84%、保護者88%が肯定的評価であった。3つの部が都大会出場を果たした。

②安全管理と事故防止の推進

□成果… 安全教育については保護者の87%、安全管理と美化活動については生徒92%、保護者94%が肯定的評価であった。コロナ対策も徹底し、学級閉鎖も○学級にとどまった。

IV. キャリア教育の推進

①体験的な学習活動によるキャリア教育の推進

□成果… キャリア教育については保護者71%が肯定的な評価であった。コロナ禍であったが、年間指導計画に沿って職業調べや上級学校訪問、職場体験などの体験的な学習活動を実施することができた。任意参加の1年生英語キャンプには76%の生徒が参加した。

V. 小中一貫教育の推進

①小中一貫教育研究実践校としての取組の充実

□成果… コロナ禍で停滞していた校区別協議会や生徒の交流活動を実施し、生徒会と児童会で実施した「いじめ防止意見交換会」は練馬区のいじめ防止奨励賞を受賞した。

■課題… 今後は、学習指導にかかわる課題改善カリキュラムに取り組む必要がある。また、保護者の肯定的評価が59%に止まっており、小中の連携活動についての周知が必要である。

VI. 教職員の意識改革

「① 授業改善と授業力の向上 ②新学習指導要領に基づく指導と評価についての研究」は、I ①を参照。

③服務事故の根絶

□成果… サービス規律やハラスメントについて、例月の職員会議や校内研修で事例研究や指導を行った結果、不適切な指導を含む体罰や情報漏洩の事故は発生していない。

■課題… 他の生徒が指導を受ける様子を見てショックを受けたり、毅然とした姿勢で指導を受けて登校を渋ったり、これまでの経験や指導方法が通じない場面もあり、個に応じた指導の工夫が必要である。

VII. 保護者・地域から信頼される学校づくり

① 学校・地域連携事業の積極的な運用 ②土曜日授業の内容の充実 ③PTA事業や地域行事等への積極的な参加、協力 ④開かれた学校づくり

□成果… コロナ禍のため、ほとんどの事業や行事が実施できなかったが、年度末に制限が緩み、同窓会や地域行事に多少参加することができた。学校のHPなど情報公開については、生徒、保護者とも88%が肯定的な評価である。

2 根拠となる資料 *今年度の学校経営方針をもとに作成

(1) 学校経営計画に基づく重点目標・具体的方策とその結果 <達成度 ◎:十分 ○:おおむね △:課題あり>

経営目標	短期目標	具体的な方法	評価方法・目標値	結果値	達成度
	①大泉中授業スタンダードを踏まえたわかる授業の展開と「主体的、対話的で深い学びの実現」をめざした授業の追求	・授業の構造化による学習課題やポイント、流れの明確化、可視化 (ICT 機器の活用) ・生徒一人一人が思考・判断・文書などに表現する場面を取り入れた課題解決型授業の実践。(生徒タブレット端末の活用) ・少人数生徒による協働的な学習活動の実施	◆生徒授業評価項目 4~7 の肯定的 評価平均 90% ◆生徒授業評価項目 7 の肯定的評価平均 75%	86.8% 73.1%	○ ○

確 かな 学 力	②新教育課程を踏まえた年間指導計画・評価計画の作成と実施	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画と評価計画の見直し、改善と年度当初の開示。 ・評価の信頼性・妥当性を追求するための評価材料の明確化。（各学期に管理職に提出） 	◆保護者質問紙調査項目3～5の肯定的評価平均90%	82.5%	○	
	③基礎学力の定着と家庭学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題や単元テスト、小テストの予習など課題の提示（週50%以上） ・生徒タブレット端末のオンライン学習教材の活用 ・定期考査前や長期休業日の質問教室や補充学習の実施 	◆生徒授業評価項目3の肯定的評価55%	57.7%	◎	
	③学習意欲の向上に向けた検定やコンクールの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・英語・漢字・数学検定等の奨励 ・検定試験前の対策教室の実施 ・全教員やSSSによる積極的な支援 ・実施方法の適切な設定 	◆受験率等前年比5%向上 R3 652名 90.6%	84.7% 568名	○	
生 徒	豊 か な 心	①個々の生徒のよさが発揮できる学級経営や学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学年経営案、学級経営案による意図的、計画的な学年・学級経営 ・年度当初に全生徒対象の教育相談 ・年2回の個別面談の実施 ・基本的な生活習慣「あじみこし」の指導 ・達成感のある学校行事の実施 	◆保護者質問紙調査項目6と9、10の肯定的評価平均95%	87.9%	△
		①「特別の教科 道徳」の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づく意図的な指導 ・道徳的実践力向上のための指導法改善 ・道徳的価値を多面的、多角的に理解するための活動の充実と記録の蓄積 	◆保護者質問紙調査項目11と13の肯定的評価平均93%	84.3%	△
		②教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ不登校の出現率ゼロを目指した教育相談、個人面談等の実施（年間2回） ・1年生全員対象のSCによる面談の実施 	◆保護者質問紙調査項目14の肯定的評価平均90%	77.1%	△
		③特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・10組と通常学級の交流及び共同学習の充実 ・校内委員会での情報交換、巡回教員やSC、専門員との連携による個別支援の充実 ・個別指導計画に基づく指導の実施と結果の検証、PDCAサイクル化 	◆保護者質問紙調査項目17の肯定的評価平均85%	75.1%	△
	④いじめ問題の防止と適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校いじめ防止基本方針」に基づく未然防止指導の徹底と月1回の実態調査の実施 ・校内いじめ対策委員会を中心とした組織的で迅速な対応、いじめの解消・解決 	◆いじめ・不登校の発生・出現率0%	いじめ2% 不登校4%	○	
健 康 ・ 体 力	①生徒の健康づくりと体力向上の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた体力づくりの実施 ・区の部活動の在り方に関する方針に沿った部活動指導の充実。（全教員で補完する） 	◆保護者質問紙調査項目15の肯定的評価平均95%	88.2%	○	
	②安全管理と事故防止の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づき、様々な状況を想定した避難訓練等の実施 	◆保護者質問紙調査項目11と16の肯定的評価平均95%	91.1%	○	

	キャリア教育	① 体験的な学習活動によるキャリア教育の推進	・年間指導計画に沿った発達段階に応じた体験的な学習活動の充実 ・校外学習等による日本の伝統文化体験学習 ・ALT や東京英語村、英語キャンプを活用した国際交流の実施	◆保護者質問紙調査 項目7の肯定的評価平均90%	81%	△
	小中一貫	① 小中一貫教育実践校の取組の充実	・「目指す15歳の姿」を実現させるための校区别協会の充実（年間5回）	◆保護者質問紙調査 項目19の肯定的評価平均70%	59.1%	△
教職員	資質向上	① 授業改善と授業力の向上 ② 学習指導要領に基づく指導と評価の研究 ③ 服務事故の根絶	・生徒の「学びに向かう力」を高め、思考・判断・表現力を高める授業改善（ICTの活用） ・研究授業の実施（1人1回） ・体罰や不適切な指導の根絶に向けた服務事故防止研修の実施（年間3回以上）	◆教員の自己評価平均90% ◆服務事故発生率0%	93.5% 0%	◎ ◎
	組織力の向上	① 4級職教諭を中心とした組織的な学校運営	・毎朝の運営連絡会議の実施 ・週1回の企画委員会における各分掌からの起案事項の適切な協議 ・4級職教諭との定期的な経営会議の実施 ・若手教員対象ミニ研修の実施（年15回）	◆教育目標の達成教員70%	98.8%	◎
		① 教職員のライフワークバランスの推進	・校務の効率化や組織的な対応による在校時間の縮減（月45h、年間320h）20%以下 ・夏休連続5日、年休取得10日以上80%	月80h超 平均20% 夏休連続3日以上85% 年休取得10日36%		
家庭・地域	信頼される学校づくり	① 学校・地域連携事業の積極的な運用 ② 土曜日授業の内容の充実 ③ PTA 事業や地域行事等への積極的な参加、協力 ④ 開かれた学校づくりの推進	・コーディネーターとの連携による地域人材の積極的な登用と活用 ・土曜日の公開授業や各種行事の内容の工夫による保護者参観者の増加 ・生徒会や部活動を中心とした地域ボランティア活動の充実 ・PTA 活動や地域行事等への全教員の参加・協力（年1人1回） ・学校だより・ホームページの定期的な発行・更新と記事の多様化（毎日）	◆保護者質問紙調査 項目12の肯定的評価平均95% ◆保護者の参加率前年度比10%向上 ◆保護者質問紙調査回収率80%	89.2% コロナ禍で比較不可 59.6%	○ △

（2）次年度に向けた校長の見解

今年度より保護者質問紙調査を Google foam を活用して実施したところ、回収率は 10.4 ポイント上昇したが、60%に達していないため、さらに協力を呼び掛けて回収率を上げ、保護者の評価の信頼性を高める必要がある。また、こちらの目標設定数値が高かったため、目標値に大きく未達の項目が7項目あり課題である。

学校評議員会で報告した際、特に数値目標の未達についての意見はなかったが、保護者質問紙の回収率が低いことが残念で課題だとの意見や、健康に生活するための食育、給食指導の重要性についての意見が出た。

次年度については、現在の中期計画に基づいて実行していくが、コロナ感染症の扱いも変更されるため、これまで制限されてきた活動も含め、学校の教育活動全体を見直し、教員の働き方改革との両立を図りながら、教育目標の達成に向けて取り組んでいく。特に、第1学年の総合的な学習の時間の時数については標準時数に戻し、職場体験は第2学年で実施するよう指導計画を大幅に見直す。また、保護者や地域に対してさらに学校を開き、学校もPTAや地域活動に協力し、生徒も教職員も積極的に参加する姿勢を取り戻したい。

